令和２年度
愛媛大学大学院農学研究科附属
柑橘産業イノベーションセンター
活動報告書

令和３年４月

目　次

１．センター概要　　Ｐ１

２．各部門活動報告　　P11

（１） センター概要

愛媛大学大学院農学研究科附属柑橘産業イノベーションセンターについて

センター設置の背景

愛媛県の主要産業の一つである柑橘産業は，平成 30 年 7 月の豪雨災害により愛媛県内各地で甚大な被害を受けました。また，以前から当該産業界からは連携支援の要望があり，地場産業に密着した教育研究組織の設置は愛媛大学として重要な戦略・課題であることから，農学研究科は，愛媛県内の柑橘産業の復興支援と発展を支援するため，平成 30 年 12 月 1 日に「柑橘産業イノベーションセンター」を設置しました。

また，関係機関との意見交換の中で，宇和島市から愛媛大学に，柑橘産業復興のためのサテライト等の設置要望があり，被害が甚大であった南予地域の拠点として，愛媛県農林水産研究所果樹研究センターみかん研究所内に，「愛媛大学大学院農学研究科附属柑橘産業イノベーションセンター南予サテライト」を設置しました。

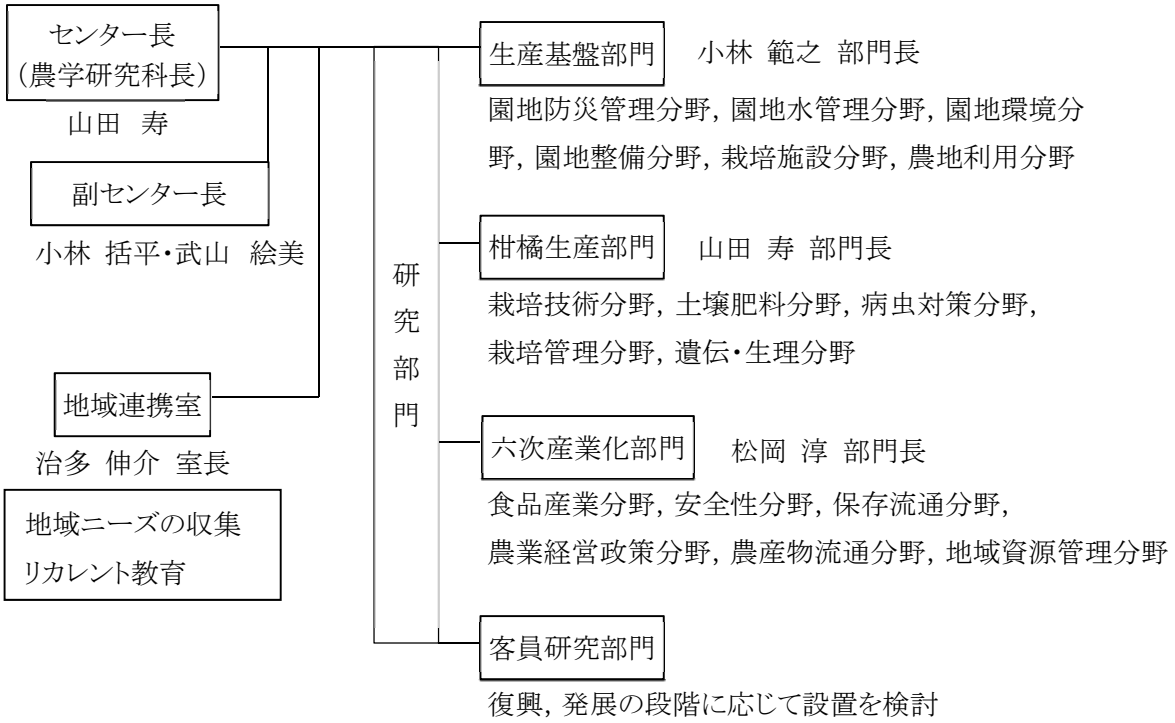
センター設置の目的

農学研究科において基礎研究を通して培われてきた多様な分野のシーズを柑橘産業のイノベーションにつなげることによって，愛媛県における柑橘産業の復興とさらなる成長に貢献することにより，地域の柑橘農家が将来に希望を持ち，安心して営農を継続できるように支援することを目的としています。

センターにおける活動の方向性

柑橘産業の復興及び発展を支援する取組により，将来の愛媛県の柑橘産業を支えていきます。学内施設である愛媛大学防災情報研究センター，農学研究科附属食品健康科学研究センター及び愛媛県の農林水産研究所と連携して産学官で取り組んでまいります。この方向性は，愛媛大学の戦略である「地域の持続的発展を支える人材育成の推進」及び「地域産業イノベーションを創出する機能の強化」に資するものであり，愛媛県が国の施策等に関する提案・要望を行う事業を支えるものでもあると考えています。

センターの構成



※南予サテライト

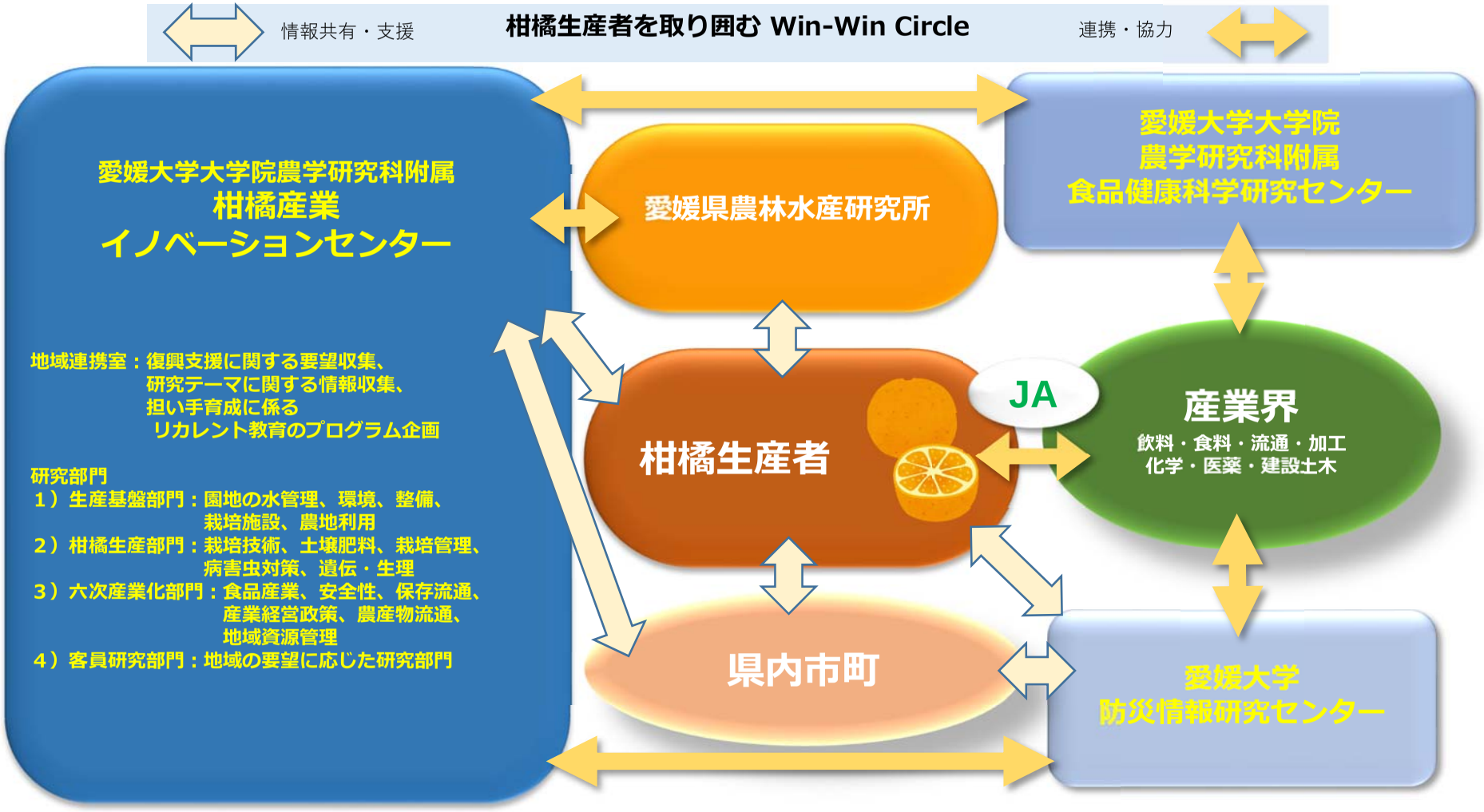
地域ニーズの収集，受託研究・共同研究等のための南予地域の拠点

設置場所：宇和島市吉田町（愛媛県農林水産研究所果樹研究センターみかん研究所内）

愛媛県柑橘産業の復興と発展に向けて

愛媛大学大学院農学研究科附属　柑橘産業イノベーションセンター

地域のニーズ収集、受託研究、共同研究拠点



本センターの構成（R3.4.1）

センター長

山田 寿

副センター長

小林 括平

武山 絵美

地域連携室

＊当面，復興支援に関する要望，研究テーマに関する情報を集める。

＊産地からの要望を受け，担い手育成に係るリカレント教育等に係るプログラムを企画，教員間の調整，センター運営委員会への提案を行う。

＜構成員＞

治多 伸介 （統括）

小林 範之

板橋 衛

山本 和博

間々田 理彦

研究部門－生産基盤部門

小林 範之 （部門長）

＜構成員＞

園地防災管理分野（愛媛大学防災情報研究センターとの連携）

＊平成30年水害復興，今後の災害の防災，減災に関する研究

久米 崇

佐藤 嘉展

泉 智揮

小林 範之

森脇 亮 （理工学研究科教授）

園地水管理分野

＊柑橘栽培園地における灌漑用水確保，及び水質管理に関する技術の開発

治多 伸介

山下 尚之

泉 智揮

小林 範之

園地環境分野

＊柑橘栽培園地における微気象の栽培管理へのフィードバック

大上 博基

園地整備分野

＊柑橘栽培園地整備に関する研究

武山 絵美

栽培施設分野

＊施設栽培柑橘の生産性向上を目的とした環境制御を可能にするシステムの開発

有馬 誠一

上加 裕子

農地利用分野

＊柑橘栽培園地の高度活用を目的とした社会科学的手法の開発

松岡 淳

研究部門－柑橘生産部門

山田 寿 （部門長）

＜構成員＞

栽培技術分野

＊柑橘の生産性と果実品質の向上を目的とした栽培技術の開発

山田 寿

荒木 卓哉

羽生 剛

土壌肥料分野

＊柑橘栽培園地における土壌診断と土壌改良による環境保全型生産性向上技術の開発

上野 秀人

病虫対策分野

＊柑橘病原体および害虫の同定，ならびに化学的，耕種的および生物的防除法の開発

小西 和彦

吉冨 博之

八丈野 孝

西脇 寿

栽培管理分野

＊ICTや画像解析などの計測技術を活用した柑橘栽培管理技術の開発

羽藤 堅治

髙山 弘太郎

遺伝・生理分野（愛媛県農林水産研究所とも連携）

＊新品種開発の基盤となる植物生理学的研究，ゲノム解析，およびゲノム編集技術の開発

小林 括平

秋田 充

賀屋 秀隆

羽生　剛
八丈野　孝

研究部門－六次産業化部門

松岡　淳　（部門長）

＜構成員＞

食品産業分野（農学研究科附属食品健康科学研究センターとの連携）

＊柑橘を材料とした食品，特に健康機能性食品の開発とその産業化

菅原　卓也

安全性分野

＊愛媛県産柑橘の需要拡大と輸出促進を目的とした残留農薬等の検出・計測技術の開発

高橋　真
川嶋　文人（環境産業科学（三浦）寄附講座）
石坂　闇啓（環境産業科学（三浦）寄附講座）

保存流通分野

＊愛媛県産柑橘の需要拡大と輸出促進を目的とした腐敗防止や品質保持のための技術開発

高橋　憲子
森松　和也

農業経営政策分野

＊愛媛県産柑橘生産者の担い手育成と生産者支援システムおよび政策に対する提言

胡　柏
山本　和博
椿　真一

農産物流通分野

＊愛媛県産柑橘の需要拡大と輸出に対応した流通システムと産地体制の改善およびブランド推進

板橋　衛

地域資源管理分野

＊柑橘生産に関わる農地や生産諸施設等の生産基盤の維持管理システムと新たな高度利用の開発

松岡　淳
間々田　理彦

研究部門－客員研究部門

復興，発展の段階に応じて，研究部門の設置を検討します。

柑橘産業イノベーションセンター南予サテライト利用実績

（令和２年４月～令和３年３月）

＜使用例（目的）＞

樹園地調査
講演会参加
データサンプリング
研究打ち合わせ
施工状況視察
機器メンテナンス

＜延べ利用教員数＞

１３名

＜サテライトを活用した調査等の様子＞

急傾斜園地における土壌水分のモニタリング

急傾斜園地での調査

排水ボーリング工と土壌水分のモニタリング

（２） 各部門活動報告

「地域連携室」

1)『愛媛大学 地域専門人材育成･リカレント教育支援センター シンポジウム 2020「～愛媛大学におけるリカレント教育の今後の展開を考える～」令和 2 年 8 月 25 日(火) 主催：地域専門人材育成・リカレント教育支援センター』において「治多伸介：柑橘産業人材育成プログラム」の発表を実施した。内容は，柑橘産業イノベーションセンター主催のリカレント教育プログラム開発状況の報告である。

2) 『愛媛大学新規リカレント教育プログラム開発支援事業』に対して「地方創生型柑橘産業人材育成プログラム(学士・修士教育との連携，出口一体面の強化，文部科学省への申請を目指して)」を申請して，採択された。そして「地方創生型柑橘産業人材育成プログラム」への，中国四国農政局，愛媛県，宇和島市，JA えひめ南等の外部関係団体等への協力依頼や聞き取り調査を実施し，その結果を踏まえて，120 時間のプログラムの計画を策定し，情報発信のためのホームページ開設の準備を行った。

3) 愛媛県南予地方局や宇和島市等と，令和 3 年 2 月 10 日（水）及び 3 月 26 日（金）に，柑橘産業イノベーションセンターの効果的な活動促進方策について検討した。このなかで，行政や JA，農家さんなどは，当センターへの質問や要望があり，それらを受け入れる体制づくりを早期に確立してほしい等の意見があることを確認した。

4) 愛媛県南予地方局，宇和島市，JA えひめ南，一般社団法人 RCF と連携して，UI ターンによる新規就農者を確保する取り組みを実施している。その一環として，JA えひめ南へのみかんアルバイターに対して，アルバイトの動機や当地での就農定住意向，望まれる支援策についてアンケート調査を行った。

地域専門人材育成・リカレント教育支援センターシンポジウム2020が開催されました

2020.08.26

南加記念ホールにて、「地域専門人材育成・リカレント教育支援センターシンポジウム2020～愛媛大学におけるリカレント教育の今後の展開を考える～」を開催しました。
このシンポジウムは、各学部、研究科が新たに取り組んでいるプログラムなどの情報を共有し、意見交換等を行い、本学のリカレント教育の今後の展開を考えることを目的に開催したもので、本学が示す「施設利用にあたっての感染防止対策」を遵守したうえで約30名の学内教職員の参加がありました。　最初に、仁科 弘重 理事・副学長、社会連携推進機構長から開会の挨拶があり、続いて、 治多 伸介 地域専門人材育成・リカレント教育支援センター長から「愛媛大学におけるリカレント教育の現状と課題」をテーマに講演がありました。その後、各学部、研究科が取り組んでいる、以下のプログラム開発の現状に関する紹介がありました。

【プログラム】
◇子ども安全管理士リーダー養成プログラム/ 小佐井 良太 教授(法文学部)
◇<コミュニティー・スクール推進事業>学校と地域の絆プロジェクトin愛媛
遠藤　敏朗特定教授(教育学研究科)
◇中小企業診断士育成支援プログラム/ 西村 勝志 副学長、教授(社会共創学部)
◇企業向けデータ利活用の普及と研修/ 中川 祐治 教授(理工学研究科)
◇高機能材料リカレント教育プログラム/ 小林 千悟 教授(理工学研究科)
◇柑橘産業人材育成プログラム）/ 治多 伸介 教授(農学研究科)

仁科 弘重 理事・副学長 社会連携推進機構長

治多 伸介 地域専門人材育成・リカレント教育支援センター長

「生産基盤部門」

【園地防災管理分野】泉智揮・久米崇・佐藤　嘉展・小林　範之・森脇　亮

＜論文発表＞

[1] Izumi, T., E. Takeyama, Y. Sato, and N. Kobayashi: Damage to Agricultural Infrastructure in Ehime Prefecture Resulting from the Heavy Rain Event of July 2018 -Focusing on Damage to Orchard Fields and Irrigation Tanks-, *Journal of Rainwater Catchment Systems*, 26(2), pp.15-25, 2021

＜学会・研究会発表＞

[1] 泉　智揮・小林範之：園地改良技術について，果樹園災害復興支援技術開発事業推進検討会，宇和島市，2020.8.6

[2] 泉　智揮・立花妃菜乃・尾崎浩平・小林範之：柑橘園地における降雨浸透制御のための基礎実験，第 75 回農業農村工学会中国四国支部講演会，WEB 会議，2021.2.8～2.21

[3] 東畑　翼：急傾斜地における降雨浸透制御のための浸透実験と斜面安定性の検討，卒論発表，2021.2.26

＜共同研究・受託研究＞

[1] 豪雨でも崩れにくい園地に改良する技術の開発（果樹園災害復興支援技術開発事業），愛媛県農林水産研究所・令和 2 年 4 月～令和 3 年 3 月・160 万円・小林範之・泉智揮

＜南予サテライトの利用状況＞

受託研究（柑橘産業復興支援活動調査研究，宇和島市）および共同研究（果樹園災害復興支援技術開発事業，愛媛県農林水産研究所）の現地調査等において数回利用した

＜広報＞

[1] 佐藤嘉展：豪雨時代を生きる　被災地・愛媛から　第 3 部②，愛媛新聞 2020/5/8 朝刊

【園地水管理分野】治多　伸介・山下　尚之・泉　智揮・小林　範之

＜学会・研究会発表＞

[1] 曽根 崇博 : 農地の土壌・気象条件がブラッドオレンジの品質に与える影響の検討, , 卒論発表，2021.2.26

＜社会貢献＞

[1] 治多伸介：宇和島市地方創生推進委員

＜南予サテライトの利用状況＞

以下の 2 課題において，現地調査の活動拠点(研究打ち合わせ，調査準備，データ整理作業など)として利用(令和 3 年度は合計 5 回程度)．なお，後者の課題では，愛媛県みかん研究所の御協力のもと，同研究所内の園地を調査圃場としている．

[1] 「宇和島市におけるブラッドオレンジ栽培に適した農地条件の解明」

[2] 「柑橘栽培園地における灌漑用水確保，及び水質管理に関する適正技術の開発」

【園地環境分野】大上　博基

【園地整備分野】武山　絵美

＜論文発表＞

[1] Izumi Tomoki, Takeyama Emi, Sato Yoshinobu, Kobayashi Noriyuki (2021),Damage to Agricultural Infrastructure in Ehime Prefecture Resulting from the Heavy Rain Event of July 2018 -Focusing on Damage to Orchard Fields and Irrigation Tanks-, Journal of Rainwater Catchment Systems, 26(2), 15-25.

[2] 武山絵美，西久保依里佳（2021）傾斜地の樹園地圃場整備に向けた合意形成促進要因― 愛媛県松山市の柑橘園地における農地中間管理機構関連農地整備事業を対象として，農業農村工学会論文集，312，掲載決定済．

[3] 藤原千里，武山絵美（2021）農振農用地区域における非農地判断制度の導入が農地の維持管理に及ぼす影響－愛媛県松山市を事例に－，農村計画学会誌，40(1)，掲載決定済み．

＜学会・研究会発表＞

[1] 藤原千里・武山絵美 : 果樹農業地域の農振農用地区域における非農地化の現状と課題，令和 2 年度農業農村工学会大会講演会，鹿児島大学（鹿児島市・Web 開催），2020 年 8 月．

＜共同研究・受託研究＞

[1] 樹園地整備における合意形成および設計・計画手法の検討、２．樹園地における野生動物被害の実態と対策の検討（宇和島市　令和２年度柑橘産業復興支援事業（復興支援活動調査研究）・令和２年４月１日～令和３年３月３１日・400,000 円・武山絵美）

【栽培施設分野】有馬　誠一・上加　裕子

＜学会・研究会発表＞

[1] 樹形垂直プロファイルと光合成モデルに基づく柑橘ハウス内の炭酸ガス環境の最適化（修論発表）

[2] 柑橘のジョイント型樹形における摘果果実検出（卒論発表）

＜共同研究・受託研究＞

[1] JST　研究成果展開事業　研究成果最適展開支援プログラム A-STEP　トライアウト・2020/10～2022/3・300 万円　「急傾斜柑橘園向け煙霧式ハイブリッド農薬散布システムを搭載したドローンの開発」

＜広報＞

[1] 傾斜地の柑橘にもドローン活用　流体力学で「葉の裏まで農薬を」週刊　愛媛経済レポート，2020 年 11 月 2 日第 2225 号，p5

＜その他特記事項＞

[1] 愛媛大学農学研究科研究グループ（ARG）;急傾斜地農業の超省力・高品質生産のための小型ロボット農業システム研究グループ，2020～2022 年度

【農地利用分野】松岡　淳

＜学会・研究会発表＞

[1] 松岡淳・間々田理彦．柑橘作における樹園地面的集積の実態と可能性．第 70 回地域農林経済学会大会（WEB 開催）．2020 年 10 月．

[2] 松岡淳．愛媛県におけるスマート農業の展開と課題（座長）．地域農林経済学会四国支部第 56 回研究大会．愛媛大学農学部．2020 年 12 月．

[3] 元山雅史．柑橘作における雇用労働力確保の現状と課題．2020 年度食料生産経営学コース卒業論文．

＜共同研究・受託研究＞

[1] 被災地域での樹園地基盤整備による経済効果の分析（宇和島市・令和２年度柑橘産業復興支援事業（復興支援活動調査研究）・令和２年４月１日～令和３年３月３１日・400,000 円・松岡　淳）.

＜社会貢献＞

[1] 松岡淳．第 1 回愛媛県総合園芸振興審議会．松山市．2020 年 8 月.

[2] 松岡淳．農地中間管理事業評価委員会．松山市．2020 年 10 月.

[3] 松岡淳．第 2 回愛媛県総合園芸振興審議会．松山市．2021 年 2 月.

＜広報＞

[1] 松岡淳．愛媛県における農地集積の必要性と課題．愛媛新聞 2021 年 1 月 4 日号

愛媛県における農地集積の必要性と課題

Interview no.1

愛媛大学大学院 農学研究科教授
松岡 淳 氏

圃場整備を通じた農地集積を

愛媛県の農地集積率は令和元年度31.8%で全国平均を 25 ポイント下回っています。その要因は県特有の農業構造にあります。かんきつ栽培が盛んな地域では園地が傾斜地に集中し、平野部に比べて集積が進みにくく、稲作地域でも圃場整備が進んでいないことが挙げられます。そこで、小区画で分散している農地を集積し、圃場整備を行うことで、農家１戸あたりの耕作面積が増加し、その結果、所得の向上が期待できます。新規就農者を育て、農業の担い手不足を解消するため、新たな農業法人を立ち上げるためにも、農地集積は喫緊の課題です。

安心で簡便な農地中間管理事業

一方で、稲作の盛んな西条市や西予市を中心に、県内の農地集積率は、徐々にではありますが年々増えてきています。これは、ひとえに、えひめ機構や市町の関係者の尽力によるところが大きいと思います。実際に農地を動かすには手間も時間もかかるものです。そこで、数年前から農業者の負担や同意がなくても、農地中間管理機構による基盤整備が可能になりました。遊休農地の基盤整備ができれば集積がさらにスムーズに進むのではと考えています。また、通常の農地の貸借と比較すると、いったん機構に預けてから貸すということは手続きがさらに増えることでもあります。機構が間に入ることで安心感は増しても、書類上の手続きの煩雑さがネックになっていました。そこで、今後は書類手続きを簡便化する方向に動き始めています。

高齢化した農家など農地の売却や賃貸を望む「出し手」と、購入や借り受けを望む「受け手」とのミスマッチが農地集積の妨げとなっています。農地中間管理機構が両者をつなぎ、さらに、AI（人工知能）や IoT（モノのインターネット）などを活用したスマート農業と農地集積をセットで推進することが愛媛の農業の発展に寄与するものと考えます。

許諾番号：301-013

「柑橘生産部門」

【栽培技術分野】山田　寿・荒木卓哉・羽生　剛

＜論文発表等＞

・修論

[1]橋田　あきは：ウンシュウミカンの浮皮発生程度の違いに関する遺伝的要因の調査

・卒論

[1]森澤　まどか：海水の連年処理が‘宮川早生’の樹体や果実品質に及ぼす影響

[2]平家　知典：遮光処理がウンシュウミカンの浮皮に及ぼす影響

[3]松本　亜矢：カンキツにおける p-coumaroyl CoA 2'-hydroxylase 遺伝子の品種間多型

[4]渡部　遥：カンキツにおける Prenyltransferase 遺伝子の品種間多型

[5]内山　もも：海水処理が‘甘平’果実の裂果に及ぼす影響

＜社会貢献＞

[1]愛媛県農業気象専門委員会委員（山田　寿）

[2]愛媛県立宇和島南中等教育学校グローカル・イノベーション（UGI）事業・「柑橘産業」課題研究講師（山田　寿）

【土壌肥料分野】上野秀人・当真　要

＜論文発表等＞

・卒論

[1]大西　真央：スラグ資材の施用がイネとカンキツの生育に及ぼす影響

＜共同研究・受託研究＞

[1]カンキツへのスラグ資材連用施用効果の評価（鉄鋼スラグ協会・1 年・50 万円・当真要）

【病虫対策分野】小西和彦・西脇　寿・吉富博之・八丈野　孝

＜論文発表等＞

・卒論

[1]橋本夢有：カンキツ病原菌に対して抗菌活性を示す細菌のスクリーニング

[2]高橋　亘：松山近郊のミカンハモグリガとその寄生蜂の発生傾向

＜共同研究・受託研究＞

[1]害虫防除のための天然由来殺虫成分のスクリーニングならびに成分分析（宇和島市・令

和２年度柑橘産業復興支援事業（復興支援活動調査研究）・令和２年４月１日～令和３年３月３１日・697,570 円・西脇　寿）

【栽培管理分野】羽藤堅治・高山弘太郎

【遺伝・生理分野】小林括平・賀屋秀隆・秋田　充・羽生　剛・八丈野　孝

「六次産業化部門」

【食品産業分野】菅原卓也

＜論文発表＞

（総説）

[1]石田萌子・竹國千尋・西　甲介・菅原卓也：「LPS 誘発性の過剰炎症反応における河内晩柑果皮水溶性抽出物の抗炎症効果」，果汁協会報，739，12-23，2020.

[2]菅原卓也：抗アレルギー・抗肥満効果の健康茶（石鎚黒茶），SAKU:Re，2020 秋号，3，2020.

[3]菅原卓也：みかんってやっぱりからだにいいみたい，マチボン，17，96-95，2020.

[4]菅原卓也：花粉症に特効のミカンの皮，安心 2021 年 1 月号別冊付録　永久保存版フルーツ酢，22-24，2020.

（卒業論文）

[1]和泉光将：柑橘フラボノイド「ノビレチン」による抗肥満作用とその作用機構に関する研究

[2]小野智幹：クマリン類の抗アレルギー効果に関する研究

[3]渡邉愛子：スダチチンの抗アレルギー効果に関する研究

（修士論文）

[1]伊藤誉子：ウンシュウミカン葉水溶性抽出物の抗炎症効果に関する研究

＜学会・研究会発表＞

（学会）

[1]Ito T., Nishi K., Ishida M., Kadota A. and Sugahara T.: Effect of Cirtrus unshiu leaf water-extract on inflammation-induced mouse macrophage cell line RAW264.7 cells., The 33rd Annual and International Meeting of Japanese Association for Animal Cell Technology (JAACT2020 FUCHU), Abstract p. 86 (November 17-20, 2020 Zoom webinar)

[2]福田直大・菅原卓也・菊池泰三・門田　歩：柑橘果皮等配合ヨーグルト中のノビレチンの分析について，ノビレチン研究会第 4 回学術研究会　シンポジウム，要旨 p. 20（2020 年 12 月 12 日 Zoom webinar）

[3]和泉光将・村田　希・丸亀裕貴・藤村由紀・立花宏文：ノビレチンの脂肪蓄積抑制作用ならびにマイクロ RNA 発現調節作用，ノビレチン研究会第 4 回学術研究会　一般講演，要旨 p. 31（2020 年 12 月 12 日 Zoom webinar）

[4]渡邉愛子・石田萌子・西　甲介・菅原卓也：スダチチンの抗アレルギー効果に関する研究，ノビレチン研究会第 4 回学術研究会　一般講演，要旨 p. 32（2020 年 12 月 12 日 Zoom webinar）

（講演会）

[1]菅原卓也：愛媛県産食品素材の健康機能評価と機能性食品開発，令和 2 年度コミュニティーカレッジ 愛媛の研究機関講座，愛媛県生涯学習センター　（2020 年 7 月 14 日 松山市）

＜特許＞

[1]菅原卓也・西川孝治・井戸垣秀聡：外用又は内用組成物（特願 2020-128448）（2020 年 7 月 29 日出願）

＜共同研究・受託研究＞

[1]菅原卓也：「柑橘含有成分の機能性に関する研究」伊方サービス株式会社、2020 年 8 月 27 日～2021 年 3 月 31 日、540,000 円

[2]菅原卓也：「大学生が好む、河内晩柑を使った加工品開発のための調査研究」、愛南町、2021 年 4 月 6 日～2021 年 3 月 19 日、203,600 円

＜社会貢献＞

[1]菅原卓也：N プラス協議会会長（2018 年 9 月 21 日～）

[2]菅原卓也：えひめ産業振興財団　ライフサポート支援事業「河内晩柑機能性研究部会」（2019 年 7 月 26 日～2021 年 3 月 31 日）

[3]菅原卓也：愛媛かんきつプロジェクト　愛媛かんきつ部コーチ　（2020 年 10 月 5 日～）：愛媛県 https://www.kankitsu.aifood.jp/club/

[4]菅原卓也・西　甲介・石田萌子・岡本威明：ノビレチン研究会第 4 回学術研究会実行委員会　（2020 年 12 月 12 日）

＜広報＞

[1]愛媛新聞（2020 年 11 月 6 日付）「県産ミカン　食べれば笑顔！　東京「かんきつ部」ティモンディ PR」

[2]愛媛新聞（2021 年 1 月 1 日付）「河内晩柑　若者向けに　愛南町と愛媛大学農学部生コラボ　加工品開発進行中」

[3]あいテレビ　N スタえひめ（2021 年 2 月 4 日）「県産かんきつのサプリ　認知機能維持の果皮成分含む　県産ポンカン・河内晩柑を使用　爽能柑」

[4]南海放送　NEWS CH.4（2021 年 2 月 4 日）「愛媛県産柑橘の新サプリメント　認知機能改善の効果期待　爽能柑」

[5]日本農業新聞（2021 年 2 月 5 日付）「かんきつサプリ開発　愛媛で産官学」
[6]愛媛新聞（2021 年 2 月 5 日付）「愛媛大や大阪ソーダ　県産かんきつでサプリを開発　ポンカンと河内晩かんの果皮使用」
[7]テレビ愛媛　EBC LiveNews（2021 年 2 月 5 日）「県産かんきつで新サプリ　ポンカン×河内晩柑＝認知機能改善も」
[8]愛媛朝日テレビ　スーパーJ チャンネルえひめ（2021 年 2 月 5 日）「県産柑橘を使ったサプリメント誕生　爽能柑」
[9]南海放送　NEWS CH.4（2021 年 2 月 5 日）「必見！　ウィズコロナの花粉症対策　河内晩柑の抗炎症効果」
[10]読売新聞（2021 年 2 月 10 日付）「果皮サプリ　記憶力維持期待　ポンカンなど原料」
[11]日刊工業新聞（2021 年 2 月 11 日付）　「ポンカン・晩柑でサプリメント　認知機能改善に期待　大阪ソーダなど」

＜その他特記事項＞
（学生の受賞）
[1]渡邉愛子：スダチチンの抗アレルギー効果に関する研究，ノビレチン研究会第 4 回学術研究会　学生優秀発表賞（2020 年 12 月 12 日）

（製品開発）
[1]菅原卓也：株式会社大阪ソーダ「爽能柑」、ポンカン果皮と河内晩柑果皮を活用したサプリメント、2021 年 3 月販売開始
[2]愛媛大学・愛南町：河内晩柑を活用した製品開発（現在実施中：2021 年 5 月製品販売開始予定）

【安全性分野】高橋　真・川嶋文人・石坂閣啓・稲葉健治

＜論文発表＞
（卒業論文）
[1]千葉駿介：膜ろ過法（SPEEDIA 法）による夾雑成分の多い作物における残留農薬分析

＜学会・研究会発表＞
[1]渡邊穣伎：重信川流域におけるネオニコチノイド系農薬をはじめとする農薬の濃度とそのリスク評価．グローバルサイエンスキャンパス 4 大学連携研究セミナー（指導教員：高橋　真・水川葉月），愛媛大学，2021 年 1 月．

【保存流通分野】高橋憲子・森松和也

＜論文発表＞

（卒業論文）

[1]横山航輝：包装資材が貯蔵後の甘平の品質に及ぼす影響

[2]牧野拓実，種々の品種のカンキツ果実におけるガス移動抵抗と果実内部ガス組成の比較

【農業経営政策分野】胡　柏・山本和博・椿　真一

＜論文発表＞

（研究論文）

[1]山本和博・上田賢悦・角田毅・藤井吉隆・松下秀介：離職就農時において通勤農業が配偶者の意思決定に及ぼす影響－島しょ部の柑橘産地を事例に－，農村経済研究第 38 巻第 2 号，2020.11.pp58-67.

[2]山本和博：南筑後農協における改植・基盤整備とブランド戦略による産地の活性化，果実日本，vol.75 2020.7 号，pp64-67.

＜学会・研究会発表＞

[1]胡柏:釣島支部の何が評価されたか，JA えひめ中央会，2020 年 8 月 29 日.

[2]胡柏：世界の有機農業はどこまで到達したか，愛媛県，2020 年 9 月 4 日.

[3]胡柏：有機農業の現状と課題について，八幡浜市，2020 年 9 月 16 日.

[4]胡柏：吉川典多佳さんの経営にみる成功の法則，JA えひめ中央会，2020 年 12 月 11 日.

＜共同研究・受託研究＞

[1]山本和博：科学研究費助成事業基盤研究(C)「リタイヤした新規参入者の離農要因と新規参入支援の改善方策に関する実験的経営研究」（ＪＡえひめ中央など・2020～2022 年度・4,030 千円）

[2]山本和博:柑橘産業復興支援活動調査研究（ＪＡえひめ南など・2020・180 千円），宇和島市.

＜社会貢献＞

[1]胡柏：まつやま農林水産物ブランド化推進協議会委員

[2]胡柏：愛媛県農業指導士審査委員

[3]胡柏：日本農業賞県代表審査会委員

[4]山本和博：愛媛県日本型直接支払検討委員会委員（愛媛県農地整備課）

[5]山本和博：道前平野国営緊急農地再編整備事業　事業推進技術検討委員会アドバイザー（営農関連）
[6]山本和博：えひめ農業経営者クラブ（公財)えひめ農林漁業振興機構　コンサルタント

＜広報＞
[1]山本和博：テレビ　2021/1/22　NHK　ひめポン！　「担い手不足解消なるか　島の通勤農家」
[2]山本和博:テレビ　2021/1/30　NHK　おはよう日本　「農家も通勤の時代！？担い手確保へ新潮流」
[3]山本和博：ラジオ　2021/3/9　NHK　ラジオまどんな
[4]山本和博：ＮＨＫ　ＷＥＢニュース　2021/2/26　特集愛媛インサイト　「“通勤農業”のすすめ」

【農産物流通分野】板橋　衛

＜著書＞
[1]板橋衛（編著）：マーケットイン型産地づくりとＪＡ－農協共販の新段階への接近－，筑波書房，2021 年１月

＜論文発表＞
（修士論文）
[1]遠藤健嗣：愛媛県果樹生産地域における農作業事故の特徴
[2]萩山周哉：紅まどんなへの品種転換の特徴と農業経営の現状

【地域資源管理分野】松岡　淳・間々田理彦

＜論文発表＞
（研究論文）
[1]間々田理彦：農業版ハザードマップで土砂災害に備える，季刊地域 No.42，2020 年 7 月，pp.96-99.
（卒業論文）
[1]元山雅史：柑橘作における雇用労働力確保の現状と課題
[2]鎌田萌楓：ICT×農業の発展と可能性
[3]杉澤美優：愛媛県の柑橘生産におけるえひめ飲料の役割と展望

＜学会・研究会発表＞

[1]間々田理彦・石黒聡士・淡野寧彦・山本和博：農業版ハザードマップ作成の意義とプロセス．農村計画学会 2020 年度春期大会学術研究発表会．2020 年 4 月．

[2]松岡淳・間々田理彦：柑橘作における樹園地面的集積の実態と可能性．第 70 回地域農林経済学会大会（WEB 開催）．2020 年 10 月．

[3]松岡淳：愛媛県におけるスマート農業の展開と課題（座長）．地域農林経済学会四国支部第 56 回研究大会．愛媛大学農学部．2020 年 12 月．

＜社会貢献＞

[1]松岡淳：第 1 回愛媛県総合園芸振興審議会．松山市．2020 年 8 月．

[2]松岡淳:農地中間管理事業評価委員会．松山市．2020 年 10 月．

[3]松岡淳：第 2 回愛媛県総合園芸振興審議会．松山市．2021 年 2 月．

＜広報＞

[1]松岡淳:愛媛県における農地集積の必要性と課題．愛媛新聞 2021 年 1 月 4 日号.